

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長名
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について
令和6年度病害虫発生予察技術情報第1号を発表したので送付します。
令和6年度病害虫発生予察技術情報第1号

サツマイモ基腐病の防除対策について

沖縄県では2018年頃からは場での発生が確認されており、現在も生産現場で被害を与えている。防除は病原菌をほ場に「持ち込まない、増やさない、残さない」事が重要であり総合的な対策が必要となる。

1 発生生態

- (1)糸状菌の一種 *Diaporthe destruens*(図1)に感染する事では場や苗床で発生し、収穫した塊根にも発生する。
- (2)主にヒルガオ科植物に感染し、栽培作物での被害は「かんしょ」のみである。
- (3)本病は主に、感染したつるや種イモを植え付けることでほ場に持ち込まれる。
- (4)感染すると地際部の茎および茎に近い部分の塊根が黒色～暗褐色に腐敗する(図2、3、4)。被害が進行すると、茎の上部及び塊根全体に腐敗が広がり、乾燥して硬くなり、やがて枯死する。
- (5)病変部に分生子殻(図5)と呼ばれる微小な黒粒が多数形成され、多数の胞子が漏出する。胞子は降雨で生じた湛水や跳ね上がりなどにより周辺株にも広がる。
- (6)病原菌は植物体から離れると土壌中では長く生存できないが、罹病残渣の中では長期間、生存し、次作の感染源となる。

2 防除対策上注意すべき事項

(1)持ち込まない対策

- ①発生ほ場からつる苗や種イモを取らない。
- ②褐変の無いつる苗を選定し、農薬への苗浸漬処理、又は温湯処理(47～48℃で15分浸漬)で消毒する。
- ③腐敗の無い種イモを選び温湯処理(47～48℃で40分浸漬)で消毒する。
- ④他病害対策・除草を兼ねて、苗床消毒を行う。
- ⑤発生の無いほ場から作業を行い、発生ほ場で使用した資材や機材は土などを丁寧に落として洗浄してから使用する。

(2)増やさない対策

- ①サトウキビ等との輪作を行い、野良イモが発生する場合は除去する。
- ②植え付け前にサブソイラーによる耕盤破碎等の排水対策を行う。
- ③降雨前に殺菌剤を散布して菌の感染を防ぐ。
- ④発病株は袋に入れる等で土が飛び散らないように持ち出して処分する。
- ⑤発生ほ場では収穫を早めに行う。特にかんしょ肥大期の台風による茎の折損増加と加湿状態が続く時は、早めに収穫する。

(3) 残さない対策

- ①収穫後にはほ場から速やかに収穫残渣を持ち出して処分する。又は、耕耘を数回、丁寧にを行い、収穫残渣の分解促進と野良イモの発生を防ぐ。
- ②深耕を兼ねて天地返しを行い、地表付近の残渣を減らす。

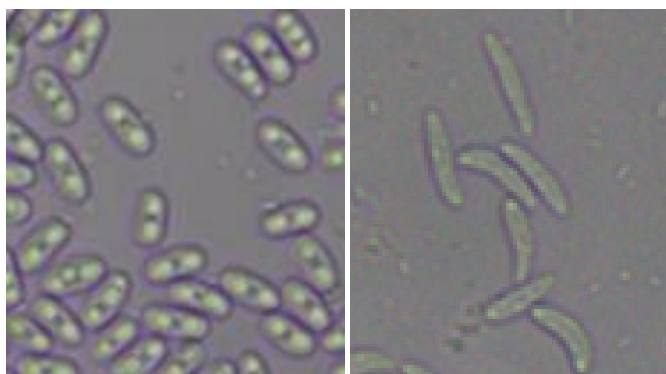


図1. 病原菌の孢子
(左側: α 孢子、右側: γ 孢子)



図2. 株元のつる枯状況



図3. 腐敗した塊根



図4. ほ場での発生状況



図5. つる黒斑部位の分生子殻